



3月幼稚園だより

令和7年3月3日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵

遊んで育つもの - 世界を変える人になる -



園長 中村 千絵

(番町幼稚園HP)

今日も番町幼稚園は子どもたちの楽しい遊びでいっぱいです。

1年間の幼稚園生活を通して、子どもたちの遊びは変わってきました。「遊びに必要な物は自分で工夫して作る」、「考えて工夫すると楽しくなる」、「友達と考えを合わせると、自分一人で考えたものより楽しくなる」。遊びは、そのまま「生き方」にもつながっていくように感じます。

ある日、3歳児もも組では、3人の子どもたちが牛乳パックを紙で包んで、電車を作っていました。きれいに包んで、本物の電車と同じ模様にしように工夫している子、その様子を見ながら、パンタグラフを作っている子、また、その二人の様子を見ながら、車輪を付けようとしている子。それぞれの遊びの目的は違いますが、「自分のやりたいこと」に向かって、自分のもてる力を全て使って、自分で工夫して「探究」しているのです。

遊びには、生活の自立や用具が使える、素材を選べるといった技術など基礎的な力が必要です。そして、「中華獅子」を見たら「獅子の演舞ごっこ」、遠足で「ロケット」を見たら、「宇宙船ごっこ」といった経験したものの、身近にあるもの（環境）を自分の遊びに取り入れていく力も大切です。1年間で、遊ぶための基礎体力を付けてきたのです。



満開の梅の木の前で。
5歳児うめ組と職員で
記念撮影

5歳児うめ組が影絵を楽しんでいました。紙を映したい形に切り抜き、色を付けたい部分にカラーセロファンを貼るなど本格的な影絵になっていました。その中で、一人の子が「お話の中で、雨が降ることにしようよ」と青いセロファンを細かく切り、上から落とすというアイデアを提案して、実際にやってみました。ある子には、「でも、（セロファンが散らばって）後の掃除が大変だからなあ」と言われたのですが、他の子に「みんなで拾えばいいよ」と言われたことで、その子は雨を作り続けました。その後の遊びの中での様々な子どものアイデアや教師の助言もあり、長い棒に雨粒を吊るして、雨が降っている様子が表現されることとなりました。雨のアイデアを最初に思いついた子は、得意気に登場人物の傘に雨が掛るように思いを込めて、雨の場面を演じていました。自分で考えたことを、困難を乗り越えて、実現させる経験、この達成感はかけがえのないものです。

遊びを楽しむことを通して、子どもたちは、番町幼稚園の教育目標である「考える子」「思いやる子」「やりぬく子」になっていきます。これは、子どもたちの今この時の「生きている」充実感であり、将来に向けての「生き抜く力」になっていきます。子どもたちが幸せになるための力とも言えるかもしれません。

それと同時に、「自分が考えたことで、遊びが変わる」経験は、自分の力を信じることや、自分には何かを変える力があると感じることに確実につながっていくと思うのです。番町幼稚園での「遊び」を通して、予測困難な時代を切り拓き、世界を変える人になってほしいと願っています。今年度最後の教育活動である3月の遊びをしっかりと充実させてまいります。



梅の花は
百花にききがけて咲き
清楚な風情と
清らかな香り
多くの実を結ぶ

左の言葉は、番町幼稚園の園章が作られた時に、添えられたものです。生涯で初めて出会う学校である幼稚園で、子どもたちが自分のよさを自覚し、友達と共にたくさんの経験をすることで、自分を広げていけるよう、この1年間、保育を進めてまいりました。子どもたちの今年度の学びが、就学後、また、進級後の学びにつながるよう、3月を大切に過ごしてまいります。

1年間にわたる保護者の皆様、地域の皆様の温かいご支援とご協力に厚く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。